ぼくたちの新・八雲風土記

8 Fantastic Stories of YAKUMO

松江市八雲町の『いま』がわかるガイドブック

新・八雲風土記の心得

1 掲載内容は単なる好み

編纂メンバーの偏った好みと「良い！」という感覚だけを頼りに情報を選んでいるため、全ての方の満足を保証するのもではありません。皆さん自身で五感を研ぎ澄まし情報選択をお願いします。

2 情報を鵜呑みにしない

神々の國出雲には想像を絶するほど数多の祭事や季節行事、畑仕事があり、店舗などは営業日と記載があっても急遽お休みすることがあります。訪れる際は事前にお電話でのお問い合わせをお勧めします。

3 カラスと一緒に帰りましょう

日が暮れたら、夜は家族だんらんの時間です。夜遅くまでお店が開いている都会の感覚で時を過ごすと路頭に迷うことになります。事前にお店の営業時間や交通機関の最終便は必ずチェックしましょう。

4 未完成の歴史書

「いま」の八雲のすばらしさを伝えたくて『新・八雲風土記』として編纂しました。日々の暮らしは刻々と変化しても、ぼくたちは未来に恥じない歴史を作りつづけよう。1300年後の誰かに届くように。

【ぼくたちの新・八雲風土記】
2019年3月発行
Publish　八雲町地域振興活動団体交流会（やくもネット）
Photo　森脇啓太・越野貴義
Text　佐藤朋也・前村晴奈
Illustration　よしと（tukuru）
Edit&Design　豊田美智子
Coordination　石原泰仁
Cooperation　八雲町のみなさん
後援　松江市・（一社）松江観光協会

1300年前からつづくものがたり

日本初の和歌

八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を

熊野大社にある歌碑

【意味】（さかんに雲がわき立つ）出雲の幾重にもめぐらした垣根。妻をこもらせるために八重の垣を作る、その美しい八重垣を。

【図】風土記に記載された八雲町内の主な神社

神様がお住まいになられる神々の國・出雲。ここ八雲町でも神々の物語や人々の伝承が1300年前の書物『出雲國風土記』の中に納められています。物語のひとつ『ヤマタノオロチ伝説』ではスサノオノミコトがオロチ退治をし稲田姫と結婚する際に日本初の和歌を詠みますが、その場所は八雲山（八雲町と雲南市にまたがる山）と言われています。八雲町は古代から脈々と続く、ものがたりの地なのです。

出雲國風土記とは？

奈良時代、地方の文化風土・地名・特産品・神話などをまとめ天皇に献上した資料で、現代の「国勢調査」のような歴史書。全国に5冊だけ残った風土記の中でも完本で現存しているのは「出雲國風土記」だけなのです。

米屋

広島からUターン。暇さえあれば家族写真を撮りまくるカメラオタク。米屋というあだ名は実家の屋号だっただけでお米の販売はしていない。

キヨッシー

止まると死んでしまう魚のように日々動き続け喋り続ける。東京時代で身に付いたギラついたオーラを田舎の町へ放射しながら生きる。

テレビの構成作家というキャリアをあっさり捨てて「松江城が好き」という理由だけで移住した松江バカ。結婚式も城で挙げた。元関西人。

おこめ

お米と演劇を愛する鹿児島出身女子。炊きたてご飯のようなつややかな笑顔とフットワークの軽さで八雲町民に愛される。

こうして立ち上がった
ぼくたちの
新・八雲風土記
編纂（へんさん）プロジェクト！
「1300年後に
残したい八雲」を
求め特派員たちは
八雲町内へ繰り出した！

唯一無二の大切な神事 in 熊野大社

出雲大社に苦言を呈す!?

八雲と言えば、まずは熊野大社へ！
年に一度（10/15）大事なお祭があると聞きやって来た！

1 熊野大社到着！

早速行ってみよう！

なんだか気持ちの良いところだ！

八雲町熊野にある熊野大社。神様は隈々しい（奥まった）地にいらっしゃるものだ。

2 本殿のまわりは見物客がいっぱい！

ただごとではなさそう！

聞くところによると出雲大社が神事に使うための道具を受け取りに来ているらしい！

3 そこでヒゲが見たものとは…!?

き、気まずい…

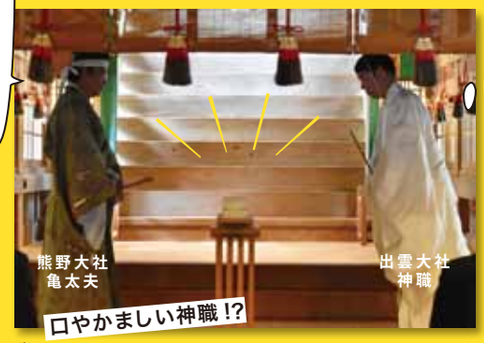
（熊野大社）
このお餅はよく見ると…
色が黒くつぶつぶが入ってひび割れているのを白い粉でごまかしています

つき直してください

えっ!?本気!?

ウソやん！

OMG!!



口やかましい神職!?

（出雲大社）
……。

鑽火祭の亀太夫神事

出雲大社は持参したお餅を熊野大社に差し出す。しかしその出来映えが気にくわないらしく、熊野大社の吟味役の社人・亀太夫があれやこれやと苦言を呈し始めた。厳かな社殿に気まずい雰囲気が流れる・・・。
※社人…社（やしろ）に仕える人。神職。

4 ところが!!?

本年のみはお供えしましょう

そうは言いましたが・・・
なかなか無理な話でしょうし苦情を言った点を来年から正すなら

散々文句を連ねた後お餅を受け取ることにしたらしい。引き換えに何かを差し出す亀太夫。火おこしの神器が入っている。

ホッ♡

よかった〜

5 そのまま神器は運ばれ

鑽火殿に納まった

6 お礼の舞が延々と・・・

な、長え!!

神器を頂いたお礼に出雲大社宮司により「百番の舞」が粛々と舞われ、無事神事は終了。

唯一無二の大切な神事、亀太夫神事の正体は

神様の厳しくも優しいメッセージだった！

常に身をただしなさい

毎年10月15日に出雲大社宮司が古伝新嘗祭に使う神器、「燧臼」と「燧杵」を頂くため神餅を持参して行われる亀太夫神事。餅の出来映えについて熊野大社の吟味役の社人である亀太夫がやかましく苦情を申し立てるが、その際「オリンピック選手も頑張っているのだから、手を抜かず見習ってほしい」などと毎年時事ネタを挿入し出雲大社側を諭すのが習わし。それを終えると神餅は受け取られ火熾しの神器は出雲大社に渡される。

Special Interview

一家相伝！亀太大夫の苦悩

亀太夫神事
亀太夫さん

亀太夫神事で重大な役目を担う亀太夫役は氏子の一軒のお宅に代々伝わる。18代目の亀太夫さんは結婚を機にこの家に入った。当時世襲の話は知らされておらず、先代が亡くなり突然役をすることになった時は苦労したという。「毎年10月が近づくとソワソワして眠れなくなります。大変ですが参拝者に良い気持ちで帰って頂けたら」と語る亀太夫さん。役を担って早や30年。今では毎年県外から駆けつけるファンも存在するほどになっている。

新・八雲立風土記 ぼくたちの

神話 vol. 1

何事もやるなら真剣に

一風変わってみえる神事には神様からの大切なメッセージが込められていた。日々の暮らしや仕事のひとつひとつに真摯に取組むことが毎日を豊かにし人生に火を灯すことに繋がるのかも知れない。

出雲國一之宮
熊野大社

火を継ぐことは霊を継ぐこと

熊野大社
宮司さん

深い〜！

熊野大社は「日本火出初之社」つまり火の発祥の神社と言われています。出雲大社では宮司の世継ぎの際にも熊野大社を訪れ、神から頂いた神聖な火で調理した御食で儀式をすることからも、火継ぎは「霊継ぎ」と考えられ大切にされてきました。人々も火で調理された食べ物を頂くことで神の力を授かり自然の生命を身に引き継ぎ生きています。毎日の「いただきます」にはこんな意味も込められているのですね。

1 熊野大社 松江市八雲町熊野2451 ☎0852-54-0087

周辺の
熊野大社の楽しみ方

いい湯だな♪

温泉スタンド

熊野館で販売している専用コイン1枚（150円）で源泉が汲める。車にタンクを積んで乗りつけたい！

八雲温泉

熊野大社のすぐそばにあるゆうあい熊野館の温泉。広々とした内湯と露天風呂でゆったり疲れを癒そう。

鯉のえさ

駐車場と鳥居の間にある池には沢山の錦鯉が。1袋20円(!)の昭和プライスで鯉との憩いの時間が楽しめる。

御神水（湧き水）

境内左奥にある荒神社横から流れ落ちる御神水。のどが潤うとともに身が清められるありがたいお水。

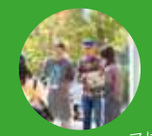
ハート石

境内のどこかにあるハート石は見つけると幸せになれると、ご縁旅女子の間で話題になっているとか。

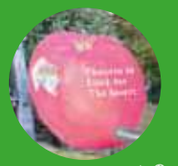
八雲へようこそ

こんな小さな町に、たのしいがいっぱい！

松江・森の演劇祭



ボランティアは地元の中学生から70代と幅広い！

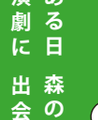


「演劇は心の食べもの」リンゴの看板が演劇祭の目印！

会場内を走るトゥクトゥク

♪ある日 森の中 演劇に 出会った

3年に1度、秋に劇場の森を中心に行われる演劇祭。国内外の劇団による多様な演劇作品を鑑賞・体験できる。普段は静かな森が可愛く飾られ、賑やかなお祭の舞台に。この国際的なお祭を支えるのは約200名の強力な地元ボランティアクルー。「演劇は心の食べもの」の言葉どおり、良質な演劇との出会いはもちろん来場者と地域の人との心のふれあいも魅力。



楽しいよ〜!!

2 しいの実シアター

八雲の森に佇む公立劇場。俳優の息づかい、繊細な表情の変化一つも逃さず感じられる空間が魅力。週末には、専属劇団あしぶえの稽古を見学することができる。（詳細はHPをご覧ください）

松江市八雲町平原481-1 ☎0852-54-2400　forest.ashibue.jp/

新・八雲土風記 ぼくたちの神話 vol. 2

愛に勝る地域資源はなし

地方創生が叫ばれて久しいが、衰退する地域を救うのはカネでも敏腕コンサルでもない。他人任せにせず足元を見つめ直そう。地域の未来を救うことができるのは一人ひとりの地域への「愛」それだけだ！

八雲ゆう游こいのぼり

スタンプラリーでは八雲町のアーティストよしとさんのこいのぼりステッカーがもらえる！

意宇川沿いの春の風物詩

平成2年に始まり一旦は途絶えてしまったこいのぼり掲揚を地元の若者が復活させた。今ではブースやイベントステージも充実。町外からも沢山の親子連れが訪れ、風に泳ぐこいのぼりを見ながら水遊びを楽しむ春の一大イベントになっている。

来てね！

イベントを主催する八雲ゆう人会の石原さん

4 日吉親水公園

毎年４月中旬〜５月中旬まで開催
松江市八雲町日吉

やくもまつり

八雲町民の誇り

八雲町が村だった時代から続くお盆の花火大会。火の粉が落ちてきそうなほど間近で打ち上がる花火は感動モノ。2019年よりお祭もリニューアル。新たな「田舎花火」にご期待あれ！

3 八雲中央公園

毎年８/14 開催
松江市八雲町西岩坂 1074

年に数回行われる和紙の天日干し。昔は日本中にあったこんな風景も今では珍しくなった

薄暗い工房の中では一枚一枚色鮮やかな和紙が作られる

原料を洗う作業に使う湧水は夏は冷たく冬は暖かく感じる

にっぽんの原風景に出会う 紙漉き

紙のふるさと

東岩坂地域にある「出雲民藝紙工房」。柳宗悦やバーナード・リーチらとともに民藝運動に加わり、人間国宝・故安部榮四郎が生みだした色紙や模様紙が美しい。雁皮（がんぴ）・三椏（みつまた）・楮（こうぞ）それぞれの原料の特徴を生かし、山の豊富な湧水や昔ながらの道具を用いて自然と共存した紙漉きが続けられている。工房内は道具ひとつひとつに趣があり、職人が紙を漉くダイナミックな音が静かに響く。石州瓦の昔ながらの家屋が立ち並ぶ集落を散歩しながら、日本の原風景を体感してみてはいかが。

宍道湖の情景を模した出雲雲紙や「千年持つ」と言われる雁皮紙で知られる

5 安部榮四郎記念館

和紙に関する資料や民藝品の豊富なコレクションが保管されてるほか、予約すると紙漉き体験（500円〜）や工房見学も可能。

9:00-16:30 火定休 島根県松江市八雲町東岩坂1754 ☎0852-54-1745 入館料大人500円(小人200円)

新・八雲土風記 ぼくたちの神話 vol. 3

クールジャパンここに在り

アニメとゲームだけじゃない！何世代にも渡り発展を遂げ現在に至る伝統技術や暮らしの知恵も、最高にクールでビューティフルな日本の誇り。たとえ時代が変わっても、決してなくしてはならないのだ。

農と里山

美しい田畑と食を守る

八雲を愛するメンバーが耕作放棄地を元の美しい緑の田んぼに戻そうと活動。米作りから草刈り、イノシシ防護柵の設置などを行う。安心・安全なお米は地元でも評判の味！

7 ふるさとファーム桑下

体験者募集中！
☎080-5614-4197

スバラシイ♡

刈った稲をハデに掛けていく

炭焼き

火を絶やすべからず

昭和40年頃まで八雲の冬の稼ぎとして盛んに行われた炭焼き。そんな伝統の火を絶やすまいと活動するのは平均年齢77歳（取材当時）のおじさま達！カシとナラを中心とした質の良い炭は全国から注文が増加中。ネット販売も始め、次世代育成をも目標とする誇り高き勇者達だ。

大きな木も軽々と！

火を入れてから約一週間、昼夜温度管理する

出来上がった炭

6 桑炭会（炭焼き）

窯の稼働は不定期。見学はHP をご覧の上お問い合わせください。
sohtankai.web.fc2.com

カッコイー♡

やくも図鑑

どうぶつ

1 サワガニ

美しい川辺に住む。両手をあげて道路を横断していることがあるので道を譲ってあげよう。

2 カワニナ

意宇川などに生息。ゲンジボタルやヘイケボタルの幼虫の餌になる。

3 たぬき

町内の山に住み、果物、ネズミ、鳥、は虫類、ミミズなどなんでも食べる。

4 カモ

11〜3月頃まで意宇川に暮らす渡り鳥。春にはヒナを連れてプカプカ泳ぐ姿が可愛い。

5 ホタル

志多備神社沿いの川に多く生息。6 月上旬の雨上がりは蛍イルミが見られることも！

6 モリアオガエル

きれいな空気と水のある場所に生息する準絶滅危惧種。秋奥地区でみつけられる。

7 いのしし

車を走らせていると親子で出会うことも。迷惑者だがジビエとしては人気が高い。

8 めだか

絶滅が心配されるが町内にはめだかの学校があるのかスイスイ泳ぐ姿が見られる。

9 カワウ

意宇川で見かける真っ黒い鳥。羽根を広げている時は濡れた羽根を乾かしています。

この本のイラストを描いてくれたのは…

八雲町在住
アーティスト
よしとさん

紙芝居パフォーマンスやアートイベントで活躍中！ https://www.tukuru.biz

出雲弁

【だんだん】
ありがとう。「だんだん、だんだん」と繰り返して使うこともある。

【あげ・こげ・そげ】
あんな・こんな・そんな。「あげあげ」「そげそげ」と相づちにも使える鉄板言葉。

【ちょんぼ・ちょんぼし】
少し。わずか。「ご飯はちょんぼにしてください」など注文の時などに恐れずに使ってみよう。

【くーだわね】
おいで。来てくださいね。決して目の前のものを食べないように。

【おちらと】
ゆっくりと。慌てずに。より訛る場合は「おつらと」に変化する。

【たばこする】
休憩する。禁煙者でもたばこするのが出雲地方の知られざるルールである。

【〜ほど】
〜だけ。「〜ほど下さい」と話しかけられてもパニックにならないよう気を付けよう。

【がいな】 強い。大きい。

【直会（なおらい）】 飲み会。打上げ。

【はっとじ】 カメムシ。

【ゴズ】 魚のハゼのこと。

【まげな】 すごい。

いわくら

磐座（いわくら）は古来から万物に神が宿ると考える日本人が大切にしてきた石のこと。巨石には不思議な力が宿ると信じられていたんですね。

8 熊野大社上宮

熊野大社から500m上流にある。産婦が服すと母乳が満ち足りるといわれる明見水がある。後方の山頂の磐座の前でお祓いをし天狗山へ遥拝することが出来る。

9 天狗山元宮ヶ成
（熊野大社元宮）

出雲國風土記で熊野山として「熊野大神の社坐す」所と記された天狗山。山頂付近の複数の磐座は大神様が天降った場所とも言われている。

10 スサノオの足跡

熊野のなだらかな田畑の脇にそびえる巨石。地球が出来て間もない頃スサノオノミコトが金馬に乗って降り立ったと語り継がれている。

ぼくたちの新・八雲立風土記
神話 vol. 4

人と自然と動物と最先端の暮らし

便利で快適な暮らしが正解だった頃、島根はビリだったかも知れない。だけど時代は変わった。自然と共生した「のんびり豊かな暮らし」ではもはや最先端だ！

お店は少ないけど、こだわりの名店があります。

ごはんと買い物

ivi cafe /SPIRAL DESIGN STORE

11

オリジナル焙煎の珈琲と、食べてカラダが元気になるゴハン。「日々の暮らしにちょっとしたこだわりと充実感を」と語るオーナーからお気に入りの物たちの背景を聞けるのも魅力のひとつ。

11:30-18:00（LO 17:30）木・金定休
(祝日の場合は営業) 松江市八雲町熊野181-3
☎0852-61-2662(cafe)/0852-61-2661

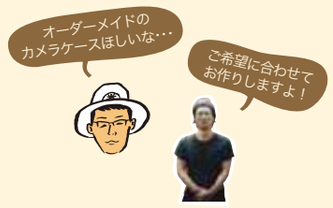
USAや北欧のヴィンテージの雑貨・家具ショップを併設。

猫ちゃんのいるアトリエ

13 hibi

日々使ってもらえるモノを“自分流”で楽しんでもらいたい。革・帆布製品の、アトリエ兼ショップ。オーナーとじっくりと相談しながらのオーダー商品も可能。

13:00-19:00 月・第3日曜定休 松江市八雲町平原 275-7 ☎0852-33-7530



14 旬菜レストラン 知足亭（ちそく）

手作りの田舎定食は万人の胃袋を掴むおふくろの味。気軽な会話が飛び交うアットホームな接客で、県内外に根強いファンを持つ地元密着型の人気店。

11:00-14:00 金・土・日のみ営業
※なくなり次第終了
松江市八雲町熊野793-1
☎0852-54-2789

新ストーブ国当ての常連さんも

スープ付のモーニング。4種類から選べるランチもある。どちらもボリュームたっぷり！

12 東岩坂珈琲店

こだわりのオーガニック豆を毎朝焙煎し淹れたての珈琲を提供。フードメニューにはなるべく松江市近郊の顔がみえる生産者から仕入れた食材を使用する徹底ぶり。

9:00-17:00(LO16:30)年末年始を除き無休
松江市八雲町東岩坂2-1 ☎0852-61-8988

新・雲土記 ぼくたちの風土 神話 vol. 5

「心が満足」を選ぶべし

高級フレンチもブランドバッグもちょっと違う。
欲しいのは顔の見える誰かが魂を込めて作ったもの。
心が満たされる衣食住、それが一番豊かだよね。

おばあちゃんと採った山菜の数々。椿の花やスミレも食べられるって知ってましたか？

旬菜レストラン知足亭に食材を提供するおばあちゃんを訪ねた。どんな作物を育てているか聞いてみると「お野菜、果物、お米に雑草…」「えっ！雑草?!」おばあちゃんの案内で家の周りを歩くと、わらびやゼンマイ、筍やフキノトウなどあっという間に色んな山菜がおばあちゃんの手の中に納まっていく。おばあちゃんとのいるとただの雑草だった草が食材に見えてくるからすごい。知足亭はこんな知恵の塊のようなおばあちゃんから仕入れた雑草…もとい山菜や、地元産の旬野菜を使い地元のお母さんたちが料理し、素朴で豊かな食を提供する。人気もうなずける。

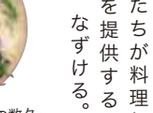
おばあちゃんは山菜を見つけるプロ！

「足るを知る」ってこういうこと。

One Obasan for all Obasan. All Obasan for one Obasan!

「八雲のおばさん」ブランドで、みそや焼肉のタレ、漬物など地元の農産物を利用した加工品を作っています。「家で一人ぼっちでいても、つまらないでしょ？」と会長の三島さん。ひきこもりがちな高齢者のふれあい、いきがい作りを目標に「常に清潔。体調管理に気を付け、みんなで楽しく仕事する」。八雲のおばさんは、余計な物を一切いれないのがミソ。八雲町民にとっては、この味噌の味が「おふくろの味」ならぬ、「おばさんの味」。ぜひご賞味あれ！

平原農産加工グループ



この日は地元中学生が職場体験に！

地域を支える底力、あります。

八雲を梅で埋め尽くす！…梅だけに。

と言ったかどうかは定かではないけど、八雲町に梅の木1000本を植樹し、梅の加工品を作っているむらの駅やくもさん。こちらで作られる商品は、品切れ続出で大人気とのこと。さっそく加工現場に伺うと、梅干しの良い香り。組合員さん達が仲良く作業をされている。手際良く。とても手際良く。梅干しの種をとるのも、食材を細かく切るのも、出汁をとったアゴ（トビウオ）から身と骨を分けるのも、最終の計量、瓶詰め作業まで…ほぼ全ての行程を手作業で行っている。これは梅ぇに違いない！

八雲町の魅力（梅の実りょく）をとじこめました！

NPOむらの駅やくも

八雲猪肉生産組合

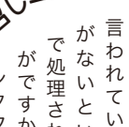
まつえのジビエを召し上がれ！

ジビエガールも活躍中！

松江市で唯一の猪肉の加工処理場を運営されているのが八雲猪肉生産組合さん。主に地元猟師や農家さんで構成されている。農地を荒らしたり、農作物を食べてしまったりと、有害鳥獣として最近話題の猪だが、お肉は高タンパク低脂質で身体にも良いと言われている。まだ猪肉を食べたことがないという、そこのあなた！八雲で処理されたおいしい猪肉を是非いかがですか？ここの猪肉を使ったフランクフルトはお隣玉湯町の八百万マーケットで販売している。新商品も続々開発中とのこと！

猪肉コロッケ

すごい数の丸餅が瞬く間に出来ていく！



秋吉農産加工組合

本物のダイドコロー。

お味噌に漬け物、こんにゃく、笹巻き…八雲産の食材で様々な加工品を作る。年の瀬の近づいた12月のある日、加工所には数えきれない程のお餅が！地元の人が持ち込んだお米を希望サイズや鏡餅、雑煮用など用途に応じて作り分けるというかゆいところに手の届くサービスをしている。機械づきされたお餅はお母さん達の手によってアッ！という間にぶにぶにの丸餅に仕上がっていく。家庭で餅つきが難しくなりつつある昨今、地域の食の伝統を守る大切な存在だ。

新・雲土記 ぼくたちの風土 神話 vol. 6

ひとりはみんなのために

残念だが自分だけ良ければいい人ない。助け合わないとどうにもならない単純にみんなでワイワイやった方が楽しんだよね。

新・八雲土風記 ぼくたちの神話 vol. 7

継続は力以上、なり

八雲町にはコンビニが一軒しかない故、全国的に絶滅危惧になった個人商店が普通に存在し独自に進化を遂げている。継続は力以上の存在感をも発揮するのだ。

タイムトリップ in 商店 やくも

Time travel in Yakumo

激動の時代を駆け抜けた八雲の大いなる遺産

まちのよろずやになりたい

昭和61年創業

お酒や日用雑貨はもちろんのこと地元産の新鮮な野菜も取り揃えているTHE地元商店。その中でも特に豊富なのが『駄菓子』！「子供たちが喜んで買いにきますよ！」とうれしそうに語る店主さんの目はキラキラと輝いていた。こういう店があるっていいよなぁ～とキャベツ太郎を食べながら思うキヨッシーであった。

17 吉田屋

松江市八雲町日吉333-84
☎0852-54-1115

オートマチック百円均一？

三島商店は不思議なお店だ。容器に100円を入れて旬のお野菜や加工品、お花などが買えるオートマッチク会計システムがあったり、タバコを販売しているレジの後ろには謎の格言が貼ってあったり、猪肉の販売をしていたり…。まさに八雲町のキングオブ不思議商店！

商店川柳!?

大正はじめ頃 創業

季節の野菜や加工品の百均は不定期開催

18 三島商店

松江市八雲町熊野 776-3
☎ 0852-54-0647

訪れるとおかみさんと一匹の猫が出迎えてくれた。振り返ると「何しに来たんや」と言わんばかりに違う猫がこちらをジッと見つめている。店内をよくみると数匹の猫が。まるで猫カフェ！いや猫商店！お酒と食料品も扱っているので猫好きと酒好きはとりあえず行ってみるべし。

16 山崎商店

松江市八雲町熊野 776-1
☎0852-54-0023

15 高木商店

松江市八雲町西岩坂 334-2
☎0852-54-0034

創業？百年くらいかしら？

歴史を感じる店構え。創業は？と聞くと「そうね～もう百年位になるかしら？明治36年からだから…」ということは…116年目！百年どころじゃないですよ！16年サバ読んでます！「でも、後継者がねぇ…」とおかみさん。ここまできたら是が非でも1300年後まで続けていてほしい！

新・八雲土風記 ぼくたちの神話 vol. 8

Make our history.

忘れないでほしい。ぼくたちは1300年前の物語が今も息づくこの地に立っている事を。そして次は、ぼくたちが今という歴史をつくる番なのだ。

神聖なスダジイ

のどかな田んぼを見ながら志多備神社参道を通り抜けると、そびえ立つスダジイに出会える。樹齢は不詳だが古くから荒神様が宿る木として人々に大切に守られてきた。圧倒的な存在感と荒々しさがあり、木陰に佇んでいると精霊に出会えそうな神聖な雰囲気が漂う。

19 志多備（したび）神社

スダジイは森に囲まれ静けさの漂う志多備神社境内にある。

松江市八雲町西岩坂 1589

ディープ・オブ・八雲

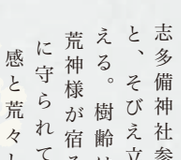
八雲のディープスポットやちょっとヘンな風習をご紹介

うなぎが神様？

宇留布神社（合祀前の三島大明神）には昔、伝説の池があり香りと味の良い酒が湧き出る池だったそうです。またこの神社の周辺では、白いうなぎは神の使いと信じられ、人々はうなぎをとらない・食べないという風習が今でも秘かに続けられているとか…。

日吉の切り通し

皆さんは、『周藤弥兵衛（すとうやへえ）』という人物をご存知でしょうか？彼は八雲町のスーパースター！それも、宝永3年（1706年）から意宇川の洪水被害を無くす為、私財を投げ出し、のみと槌を使って、56歳から97歳までの42年をかけて工事を完成させた人なのです！すごいでしょ！まさに八雲町民にとって感謝・尊敬・リスペクト！の人。意宇川のほとり、日吉親水公園に銅像があるので是非立ち寄って歴史に思いを馳せてみて。



20 宇留布（うるふ）神社（三島大明神）

古代より平和な桃源郷だった神の里・平原地区に佇む神社。

松江市八雲町平原 2038

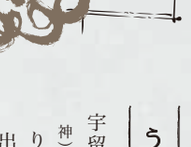
奇祭・大餅さん

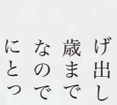
東岩坂地区の大餅さん

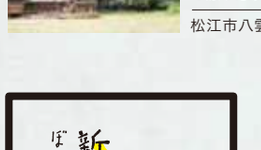
八雲には2種類の大餅神事が伝わるが、それぞれのお祭は似て非なるもの。東岩坂地区では1月の第2週目、正月の中頃、大小の餅をワラ縄と竹で飾り付け、星上山麓の仁王門から二十丁（約2km）の参道を、五穀豊穣や無病息災を祈りながら担ぎ上げ、星上寺と那富乃神社に奉納する。大雪の厳しい中でも絶えたことのないお祭りだ。

秋吉地区の大餅さん

一方、秋吉地区の田村神社の大餅神事は2月11日に行われ「七日塔（なのかとう）」と呼ばれる。豊作祈願や狩猟祈願をした後、大餅を子どもに背負わせ帰るところを後ろから雪を投げつけるという衝撃のクライマックス。投げられた子どもは可哀想に見えるけど、この役を担えることは実は名誉なこと。餅に的中すると幸せになれるとされる。







22 田村神社

出雲國風土記に「田村社」と記された神社。金山彦命という鉄にまつわる神様がご祭神。

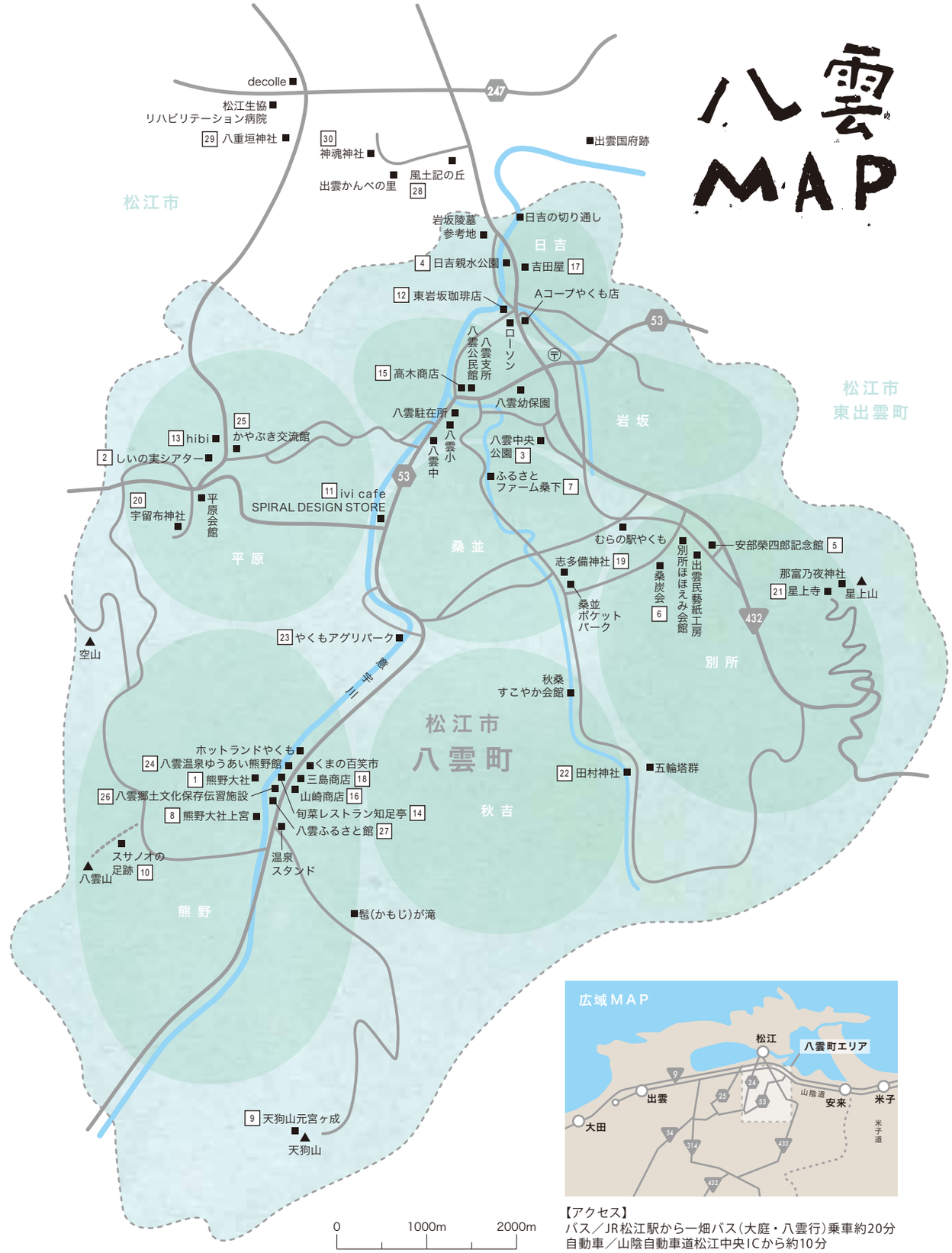
松江市八雲町西岩坂 2302

21 星上寺（ほしかみ）

星の神が降臨されたという伝説のある星上山の山頂付近にある曹洞宗のお寺。

松江市八雲町東岩坂 2192-1

八雲 MAP



広域MAP

【アクセス】
バス／JR松江駅から一畑バス（大庭・八雲行）乗車約20分
自動車／山陰自動車道松江中央ICから約10分

買って帰って！ やくもみやげ
Yakumo's Souvenir

八雲のおばさん みそ・タレ

八雲産大豆とお米を使いおばさんたちが丁寧に作るみそやタレは、愛され続けるロングセラー商品！

【取扱店】
Aコープやくも店
ゆうあい熊野館（みそ）
かやぶき交流館（みそ）

猪肉フランク

八雲町で加工された新鮮な猪肉を使ったフランクフルト。タケノコや唐辛子など季節の地元野菜が入ったバージョンも！

【取扱店】
八百万マーケット（玉造温泉街）

八雲 梅鰹出汁

梅酢と煎り酒に鰹出汁を合わせた、着色料保存料無添加のサッパリ調味料。野菜炒めや焼き魚、焼酎のお湯割りにもバッチリ！

【取扱店】
八百万マーケット（玉造温泉街）

どんぐりマット

町内の作業所の通所者さんがハギレで一点一点手作り。しっかりしていて可愛いのでリピート買いされる方も多い人気商品。

【取扱店】
ゆうあい熊野館

出雲民藝紙

優しい風合いと色柄が美しい民藝紙は海外のファンも多い。カードや便せんに手書きメッセージを込めて送ってみては。

【取扱店】
安部榮四郎記念館
八百万マーケット

梅あっさりタレ

化学調味料無添加（保存料・着色料）

八雲の梅の爽やかな酸味とダシの旨みが混然一体となった万能調味料！しゃぶしゃぶ・冷奴・サラダ、白身のお刺身などに。

梅ぇGoo

食べるラー油の進化系？梅の爽やかな酸味と唐辛子の辛味がベストマッチ！おにぎりに。冷奴に。ギョーザの具にももってこい！

【取扱店】
ゆうあい熊野館
八百万マーケット

八雲町周辺施設

27 八雲ふるさと館

昔の学校を再現した施設で地元そば愛好家の指導によるそば打ち体験が出来る。（3日前迄に要予約）

9:00～17:00(火定休) 松江市八雲町熊野809 ☎0852-54-2041

28 風土記の丘

風土記の舞台である周辺地域から出土した資料や文化財を展示。風土記植物園や復元住居もある。

9:00～17:00（火定休）島根県松江市大庭町４５６ ☎0852-23-2485

29 八重垣神社

スサノオと稲田姫の夫婦神がご祭神。縁結びの聖地として知られ、近年は鏡の池の縁占いが人気。

松江市佐草町227

30 神魂神社

森の中にひっそり佇む社。本殿は日本最古の大社造りで国宝。11月には神在祭が同社でも行われる。

松江市大庭町563

23 やくもアグリパーク

自然豊かな農園で土に触れ野菜を収穫、調理と食事までを体験できる。夜は木の温もりある宿泊棟で休める。

8:30～17:00(火定休) 松江市八雲町熊野2769 ☎0852-54-2007

24 八雲温泉 ゆうあい熊野館

熊野大社から徒歩１分の温泉宿泊施設。冬には地元産「やくも猪舞い」肉を使ったぼたん鍋がおすすめ！

第３火定休　松江市八雲町熊野773-1
☎ 0852-54-0140

25 かやぶき交流館

約100年前の家屋を移築したレンタルスペース。囲炉裏や田んぼに面した縁側でほっこり時を過ごせる場所。

9:00～18:00(火定休) 松江市八雲町平原261 ☎0852-54-2332

26 八雲郷土文化保存伝習施設

木地師道具や手漉き和紙工程、懐かしい民具を展示。昔の暮らしや知恵を体感できる。

9:00～17:00(火水定休) 松江市八雲町熊野799☎ 0852-54-1027